

森六は新興国市場で新規事業を加速する。国策として半導体産業に注力するインドとマレーシアで、半導体向け材料の事業を進めるほか、韓国ではEV（電気自動車）向けバッテリー材料の展開を強化する。アフリカでは水産養殖飼料、自動車向け樹脂や塗料関連のビジネスに着手。利益拡大に向けて攻めの戦略を展開していく。

前期(2026年3月期)はケミカル事業で中国における日系自動車メーカーの不振が響き、利益面で厳しい結果となった。タイでは日系自動車OEMの先行きに不透明感が増している。半導体の前工程向け化学品は当初の計画を下回ったが、今後は継続的な数量増が予測され、今期には回復を見込む。

グローバル事業では、インドの市場開拓に注力する。主力の合成樹脂販売が成長軌道に乗って基盤が固まり、前期は黒字化を達成した。今期は新たに化学品の輸出入を手がけて利益の上乗せを図る。また、半導体用材料やバッテリー用原料をインドのサプライヤー

新興国市場で攻めの戦略

開発で日本国外に展開する。

さらに、これまでは合成樹脂関連が主力だったマレーシアにも着目。国を挙げて「国家半導体戦略」を推進していることから、森六は半導体向けの化学品事業でFS（実現可能性調査）を実施。半導体分野に長年携わってきた韓国現地法人の社長を中心に水平展開を図る。

韓国では合弁会社のナモケムが韓国大手自動車メーカー向けバッテリー材料の認証を取得し、今月からトリアル出荷を開始した。量産化が進めば、その実績を基に日系や欧州の自動車メーカーへの提案活動を強化し、事業拡大につなげる考えだ。

南アフリカでは顧客である大手塗料メーカーが展開しており、森六は塗料を切り口に化学品の販売を計画。さらに、アフリカ有数の自動車生産国であるモロッコには欧州の有力自動車メーカーが進出し、欧州から合成樹脂が流通し始めている。森六は欧州方面から、得意とする合成樹脂で攻勢をかける。

複製を禁ず